

# オリーブの会通信

2024年7月20日第44号 (通巻50号)  
 オリーブの会  
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
 tel/fax:072-737-9454  
 mail: oribunokai@gmail.com  
 facebook:oribunokai

## مجموعة الزيتون



### 停戦を拒否し、ジェノサイドを続ける

### イスラエル

停戦を求めるイスラエル市民

ガザでは7月25日時点で、39006人が殺され、89818人が負傷し、11000人が行方不明である。

7月13日、イスラエルによって「安全地帯」とされていたアルームワシの避難民キャンプに大規模な攻撃を加え、91人の民間人を殺害した。イスラエルは、ハマスの軍事指導者の暗殺を狙ったものであると正当化している。しかし、ネタニヤフ首相自身が100%ではないというほどいい加減なもので、ハマスは嘘であると否定している。

これに対して国際的な批判が広がり、また、停戦交渉中でのこの攻撃に対して、ハマスは、交渉から引き上げると声明した。イスラエルと米国は、ハマスのせいで停戦交渉がすすまないとお門違いの批判をしている。ハマスの壊滅まで、戦争をやめないというイスラエルこそ停戦をもとめていないことはあきらかである。

イスラエルは、この後も、避難民が避難している国連の学校などを連続して攻撃し、大量の民間人を殺している。こんどは、ハマスを狙ったものという口実を使わなかった。

さらに繰り返しのハーンユニスへの攻撃で、住民への退去命令と攻撃開始がほとんど時間の余裕がなく、住民は体一つで逃げざるを得なくなり、テントも立てられず、街頭で横にならざるを得ない状態に置かれている

イスラエルのネタニヤフ首相は、国内での停戦を求める声をも無視し、戦争を続けるつもりである。軍事作戦では、生きて人質を解放できないことは明確なため、多

くのイスラエル国民が、停戦を求めているのである。

ネタニヤフ政権は、兵員の不足を超正統派ユダヤ教徒の徴兵を始めたり、徴兵期間の延長を行っている。戦線は、ガザだけでなく、レバノン国境にも広がっており、戦争の継続のためには、兵力を補う必要があった。イスラエル兵の戦死者は、すでに600人を超えており、負傷者は1万人を超えている。ガザでの戦闘で大量の戦車を失っていることが明らかになっている。

頼みの綱は米国の支援である。避難民のテントに要塞破壊のため900キロの米国製の爆弾で攻撃している。ガザ全域に戦闘が拡大しているのは、イスラエルが抵抗勢力の力を破壊することができていないからである。ハマスは戦闘員は増えているとのべ、イスラエル軍への攻撃を拡大している。イスラエル軍は、ガザから一部を引き揚げ、北部のヒズボラとの戦闘に充てるとしているが実現はできていない。イスラエル軍部は、ハマスを壊滅できないと主張している。

ヒズボラは、イスラエル北部に対する攻撃を拡大しており、また、ヒズボラの偵察ドローンが、イスラエル内の軍事拠点を撮影し、公開し、いつものイスラエル内の軍事拠点を攻撃できることを示した。ヒズボラはハマスより軍事能力が高い。

イエメンのアンサーール・アッラー（フーシ派）は、テルアビブへの無人機で攻撃し、迎撃されずに目標を破壊している。イラクの民兵もミサイル攻撃を行っている。

## オリープの会通信 第44号(通巻50号)

西岸では、イスラエルによる併合の動きが強まり、とりわけ、エリアBで、実質的に、イスラエルの支配が強められ、水の制限、土地の収奪、パレスチナ人の家の破壊と追放が続いている。

これに対して、西岸の抵抗運動による戦闘が拡大し、イスラエル軍は、その弾圧のために、空軍、ドローンを使い、拠点の街ごとの破壊を行っている

イスラエルの議会クネセットで7月18日、パレスチナ国家を承認しない決議を行った。もはやそこには、2国解決方式の余地はなくなった。クネセットの議員は「イスラエルの土地」にパレスチナ国家が存在することは認められないと述べている。ガザでのパレスチナ人の大量虐殺、西岸で実質併合は、パレスチナの地からパレスチナ人を一掃し、完全に自らのものとするを目標としていることが明らかになった。しかし、2国解決を提唱する米国は、イスラエルの動きをとめるところか、支援を行っている。米国の大統領がジェノサイド・ジョーからファシストランプに変わってもこの態度は変わることはない。トランプは「世紀の取引」と称して、パレスチナを抜きした中東諸国とイスラエルの正常化を通して中東和平を実現しようとしており、しかし、イスラエルのガザでのジェノサイドは、以前のように正常化できず、パレスチナ問題の解決抜きには、和平の実現はできないことを明確にしている。

米国とイスラエル、自治政府が、ラファ国境の管理をめぐって協議したことが暴露されているが、イスラエルが認めないだけでなく、自治政府も拒否した。自治政府もハマスの協力がなければ、管理できないことはわかっている。米国が押し付けようとしても実現は困難である。

7月19日ハーグの国際司法裁判所が、イスラエルの占領が違法であり、入植地は撤去されなければならないと意見勧告した。これは、当然のことだが、ネタニヤフ首相は、「イスラエル人が祖先の土地で生きる合法的な権利を否定することはできない」と反論した。しかし、歴史的にパレスチナがユダヤ人の土地であったことはない。

ユダヤ人の祖先は、メソポタミアに発祥し、「神に約束された地」として、パレスチナへ移住しようとしたが、パレスチナはその時もだれもいない土地ではなく、カナン人の王国があったり、すでに先住している人々がいた。これらの先住民族を殺戮し、そのあとにユダヤの王国をつくったということで、決してユダヤ人の祖先の土地ではないことは、歴史を見ればあきらかであり、ユダヤの支配を正当化するために神の言葉がつけられたにすぎない。

いし、かれらの祖先も現在のイスラエルと同じことをやってきた。

イスラエルが建国されるまで、中東、パレスチナでは、ユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒が共存し、平和に暮らしていた。中東の都市には、必ず、ユダヤ人地区、キリスト教徒地区、イスラム教徒地区というかたちで共存していた。

1948年の国連のパレスチナ分割の決議を前提にしても、イスラエルには、東エルサレム、西岸、ガザに支配権はなかった。そこは、パレスチナであり、アラブの土地であった。しかし、67年の6月戦争で、東エルサレム、西岸、ガザを占領し、シリアのゴラン高原も占領した。

このイスラエルの占領に対してパレスチナ人たちは闘ってきたのである。この占領地に入植地を作って、実質的に併合しようとするのは、国際法の違反であり、自ら占領地であるガザを包囲し封鎖することも国際法違反している。

現在のイスラエルの支配層であるアシュケナジは、欧州にいたユダヤ人であり、中東にもともといたユダヤ人は支配される側になっている。ネタニヤフの故郷もポーランドであり、彼がパレスチナを祖先の土地ということではできない。しかも、欧州のユダヤ人はディアスポラではないこと、ユダヤ教を国教としたハザール王国を出自とする人々であることも明らかにされている。そこから、彼らが先祖の土地というのは嘘である。

「ユダヤ人は「かれらの祖国」から力づくで追放されたのではなかったし、そこへの「帰還」もまた自ら進んで行ったものではなかったのである。」(『ユダヤ人の起源』 シュモロー・サンド)

いずれにしろ、イスラエルの占領が国際法に違反していることが明確になった。

7月24日のネタニヤフの米国両院議会での演説でも、戦争犯罪を否定し、「文明の衝突ではなく、文明と野蛮の衝突である」とし、虐殺を否定し、民間人の犠牲はハマスのせいである」と嘯いた。ネタニヤフは、議会の外でネタニヤフに抗議する人々をイランから金をもらっていると非難したが、抗議している人々は参加している議員こそイスラエルから金を受け取っている反論した。

米国を除いては国際法違反の事実から目を背けられなくなっている。その米国も、イスラエルがUNRWAをテロ組織と分類したことを批判している。

パレスチナの側では、中国で再びパレスチナ諸党派の統一のための協議が、4月の会議に続いて、中国で会議が行われることになった。7月23日に北京で開催されパレスチナの14の党派が参加し、「分裂を終わらせ、パレ

スチナの民族的団結を強化する北京宣言」に署名した。これは、パレスチナを抜きにして、ガザの統治を米国、イスラエルが決めようとしていることに対決するものである。

これまでと同様にパレスチナの民族的団結が勝ち取れるかは疑問である。ファタハの自治政府は、イスラエルの手先として働き、ラファの管理をめぐって、米国とイスラエルと話し合っており、さすがの自治政府も、ハマスの協力ができないと否定しているが、今回のガザの事態をハマスの責任にするなどの立場が変えられるのか、ファタハの中にもハマスの今回の作戦を正しく評価するものもいるが、自治政府は、米国とイスラエルの顔色見ながらやっており、西岸でのイスラエル軍の横暴、

入植者たちの横暴に対処せず、パレスチナの抵抗運動の弾圧に協力している。自治政府への信頼は失われ、米国の後押しで、ガザを支配しても、民衆は反発するだろう。

民族的な分裂を終わらせることは、重要だが、パレスチナの解放をどのように勝ち取るのかの一致がなければこれまでと同様の結果となる。

米国に対して、中国、ロシアの力を借りることは、必要であるが、ファタハと自治政府はオスロ合意を放棄し、イスラエルとの協調をやめ、パレスチナ解放の原点にたつてこそ、はじめて統一が可能になる。

さらに重要なことは、国際世論を強めていくことであり、イスラエルへのBDS運動を強めることである。イスラエルと米国は孤立していつている。



エレクトロニック・インティファード 2024年7月15日

グレッグ・シュパック

イスラエルがパレスチナ人に対して大量虐殺を行っていることを信頼できる情報源が次々と確認する中、私たちは大量虐殺の公的な否定を目の当たりにしている。

2月末、食糧の権利に関する国連特別報告者のマイケル・ファクリ氏は、イスラエルがガザのパレスチナ人を強制的に飢えさせていることを非難し、「国連の人権専門家としての私の見解では、これは今や大量虐殺の状況だ」と述べた。

1か月後、1967年以来占領されているパレスチナ領土の人権問題に関する特別報告者フランチェスカ・アルバネーゼ氏は、「イスラエルが大量虐殺を行ったことを示す基準が満たされていると信じるに足る十分な根拠がある」と結論付けた。

5月15日のナクバの日、大学人権ネットワーク (UNHR) は、ボストン大学ロースクールの国際人権クリニック、コーネル大学ロースクールの国際人権クリニック、プレトリア大学人権センター、イエール大学ロースクールのローウェンスタイン人権プロジェクトと共同で作成した

報告書を発表した。この文書は、イスラエルがガザで大量虐殺を実行し、現在もそれを続けていることを綿密に詳細に示している。

このような証拠が蓄積されても、大量虐殺の否定がこれほど社会的に受け入れられたことは、ほとんどない。十分に文書化された大量虐殺を否定することは、通常、人々の信用を失墜させ、立派な社会から追放され、広く信用を失うことになる。

しかし、イスラエルによるパレスチナ人への大量虐殺を否定しても、大きな社会的コストは伴わない。

例えば、ファクリ氏の発言の直後、ジョナ・ゴールドバーグ氏はロサンゼルス・タイムズ紙に寄稿し、イスラエルの行為は「大量虐殺に相当するものではない」と読者に保証した。

イスラエルが大量虐殺を行っているという証拠に取り組む代わりに、ゴールドバーグ氏は「イスラエルのパレスチナ人に対する政策は人種差別的で大量虐殺的であるという主張」を「ソ連のプロパガンダ」、ホロコースト否定、そしてウラジミール・プーチンのせいにしていく。ゴールドバーグ氏は、ファクリ氏がイスラエルの行為は大量虐殺的だと言ったばかりであることにはまったく触

れず、むしろ「イスラエル批判者」の誰かの提出した証拠について議論することなく攻撃することを好んでいる。結局のところ、大量虐殺の否定は、それが起こっている証拠が存在しないふりをすれば、かなり簡単になる。英国の新聞テレグラフ紙も同じアプローチの論評を掲載した。スティーブン・ポラードの論説「いいえ、イスラエルはジェノサイドを犯していません」は、簡単に入手できる十分な証拠に言及することを単に拒否しています。

ジェノサイドをあからさまに否定する記事を出版すると、メディアはインターネットの暗い片隅に追いやられるのが普通ですが、テレグラフはそうではありませんでした。一方、ロサンゼルス・タイムズは西海岸のリベラリズムを代表する新聞であり続けています。

### 過小評価と被害者非難

ジェノサイド否定論者は、ジェノサイドは起こらなかった、または起こっていないと必ずしも明確に言うわけではありません。

社会学者のジョアンナ・ポールは、ガザでの犯罪を擁護する著名なイスラエルのジェノサイド学者イスラエル・チャーニーの研究を皮肉にも引用し、ジェノサイド否定論の「出来事とその状況を混乱させたり不明瞭にしたりする戦略」を指摘しています。これには「死者数の過小評価」が含まれます。被害者と加害者の役割を逆転させ、殺害は報復または自己防衛のためだけに行われたと主張する(被害者非難)

加害者と被害者の逆転は、例えばイスラエルがガザで自衛しているという根拠のない考えに現れており、それほど苦労せずに見つけることができる。

同様に一般的なのが、パレスチナ人が自らの死に責任があるという形での被害者非難である。このアプローチは、例えば、パレスチナ人の死者数はハマスが人間の盾を使用したとされるせいであるという誤った見解に現れている。

犠牲者の数を過小評価することも、同様にガザでの大量虐殺を否定する一般的な方法である。大量虐殺学者のアダム・ジョーンズが言うように、この数字のゲームには、残虐行為や大量殺戮の報告を「誇張され、自己中心的」なものと描写することが含まれる。

ファクリ氏がイスラエルが大量虐殺を行っていると言いついて以来、ガザの犠牲者数を最小化する主な情報源は、ペンシルバニア大学ウォートン校の統計学およびデータサイエンスの教授であるアブラハム・ワイナー氏である。

ワイナー氏は、タブレット紙の記事「ガザ保健省が犠牲者数を偽装する方法」の著者であり、その副題は「証

拠は彼ら自身の粗雑に捏造された数字にある」である。ポラード氏の否定論はワイナー氏の記事に大きく依存しており、テレグラフ紙はワイナー氏の主張を繰り返す別の記事を掲載し、カナダのナショナルポスト紙も同様であった。

ワイナー氏は、ガザ保健省が発表する死者数は「真実ではない。自然発生的な数字の仕組みを理解している人にとっては、それは明らかだ」と主張する。

ワイナー氏の記事の多くは根拠のない憶測である。

例えば、同氏は保健省のデータに見られる欠陥は「おそらく」ハマス省が「毎日の[犠牲者数]を公表することに決めた」ためだと主張する。ワイナー氏は、ハマス省がそうした可能性は「ありそう」であり、ましてや「最もありそう」であるという証拠をまったく示していない。ワイナー氏は、同省の10月26日から11月10日までの数字を調べたが、日付別の総死亡数のグラフが「ほぼメトロノームの直線で増加している」などの明らかな不規則性を指摘し、これらは信じられないと述べている。ワイナー氏は、ガザ保健省の数字は一般的に信頼できると考えられており、イスラエルの諜報機関がそれを利用するほどであるという点で、差し迫った問題に直面している。

ワイナー氏にとってさらに問題なのは、ランセット誌が、10月7日から11月10日までのデータを調べた3人の学者による記事を掲載したことで、これはワイナー氏が調べたものよりかなり大きなサンプル数である。研究者らは、「ガザ保健省による死亡率の誇張報告の証拠は見つからなかった」。

彼らは、同省の「累積報告死亡率」と国連パレスチナ難民救済機関(UNRWA)による職員の死亡報告を比較して、この結論に達した。

ワイナー氏は、ランセット誌の調査の信頼性を失墜させようと、同誌の著者らは「UNRWA職員が一般住民よりも不釣り合いに殺害される可能性が高くないという、重要かつ未検証の仮定に依拠している。この前提は、UNRWA職員の相当数がハマスと関係していることが明らかになったときに崩れ去った。中には、10月7日の虐殺そのものに参加していたと暴露された者もいた」と述べている。

UNRWAについて説得力のある「暴露」は何もされておらず、UNRWA職員が殺害に参加していたと「暴露」されたこともない。ワイナー氏の記事が発表された時点で、イスラエルによるUNRWAへの非難は広く信用を失墜させられていた。しかし、ワイナー氏は、イスラエルによるUNRWAへの中傷が、ガザ保健省は信頼できるとするラン

セット誌の記事の結論を信用を失墜させるかのように書いている。

### ジェノサイドの省略

ジェノサイド否定のさらに別の、特に陰険な形態は、起こっていることはジェノサイドではないかのようにガザについて議論すること、つまり省略によるジェノサイド否定であると私は主張する。

私はメディアアグリゲーターの Factiva を使って、ファクリがイスラエルがジェノサイドを犯していると述べた翌日の 2 月 28 日から 5 月 28 日までのニューヨークタイムズとワシントンポストのガザ報道を調べた。この期間、アルパナーゼと人権のための大学ネットワークとそのパートナーは同じ結論に達し、この立場に至った証拠を詳細に説明した。

私が調べた期間、2 つの新聞は合わせて 1,967 件の記事を掲載し、「イスラエル」と「ガザ」という言葉が含まれていた。そのうち 270 件、つまりわずか 14 パーセントに「ジェノサイド」という言葉またはそれに似た言葉が含まれていた。

言い換えれば、タイムズ紙とポスト紙の記事の 86 パーセントは、多くの信頼できる観察者が、イスラエルがガザとその住民に対して行っていることは大量虐殺に当たると述べていることを読者に知らせていない。これらのメディアは、大量虐殺を行っている人々と、その被害を受けている人々について報道しているが、現在起きていることは権威ある情報源によって大量虐殺と広くみなされていることには触れていない。実際、それは大量虐殺の否定である。

### 大量虐殺を否定することは大量虐殺を助長する

公正な世界では、ガザでの大量虐殺を否定する人々は、

大衆に宣伝する場を与えられるのではなく、社会ののけ者として扱われるだろう。そうではない理由は単純だ。私が論じた否定論者は、米国、英国、カナダに拠点を置くメディアに記事を書いているが、これらはすべてイスラエルのガザでの大量虐殺に加担している。

ジェノサイドが起きていること、その原因は何なのか、誰が責任者なのかを隠蔽することは、それをどう止めるか、どう再発を防ぐか、誰が虐殺の責任を負わされるかという点で、逆の結論につながる可能性がある。また、ジェノサイドを否定する行為を省くことは、暴力は複雑すぎて評価できず、ましてや対処できないという誤解を生む可能性もある。

この点で、ジェノサイドが進行している間にそれを否定することは、すでに起こったジェノサイドを否定することよりも、さらに重大な政治的、知的、道徳的失策である。過去に起きたジェノサイドとは異なり、現在起きているジェノサイドは阻止でき、その被害を軽減できる。ガザのジェノサイド否定論者が持つ言説空間と権力が大きければ大きいほど、パレスチナ連帯運動が、この最も深刻な犯罪への政府の関与を阻止するために必要な臨界質量を構築し続けることが難しくなるだろう。

したがって、反人種差別、反植民地、反帝国主義の作家たちの任務は、否認論者の主張が大量虐殺を助長する歪曲と嘘であることを暴露することである。

グレッグ・シュパックは、フィクションと政治分析を執筆する学者である。彼は『間違った物語：パレスチナ、イスラエル、そしてメディア』の著者である。



7月23日ユダヤ人団体がネタニヤフの議会演説に抗議

## パレスチナの各派が北京合意に署名したが、依然として大きな障害が残っている。

中国の王毅外相がパレスチナの各派閥間の和解対話の閉会式に出席し、北京宣言に署名。デイ・ジアンラン、新華社通信

オマール・カルミ

2024年7月24日

火曜日、北京のパレスチナの各派閥は、パレスチナの2大政治派閥であるハマスとファタハの間の17年間に及ぶ内部分裂を克服するための新たな統一合意に署名した。

アル・マスリー・アル・ユームがリークしたコピーが公表されたこの合意は、主に「暫定国家和解政府」の設立を軸にしており、大量虐殺後のヨルダン川西岸地区とガザ地区の統治と選挙準備、1967年の領土での独立国家の確保、停戦後の占領地のいかなる部分に対する外国の役割の排除、パレスチナ解放機構の拡大によるハマスやその他の派閥の参加などを目的としている。

北京宣言と名付けられたこの宣言には、実施のタイムラインは示されていない。

ハマスはこの宣言を歓迎し、この宣言は「わが国民の利益に反する現実を押し付けようとするあらゆる地域的および国際的な介入に対する障壁」となると述べた。

中国国営放送局 CCTV によると、多数の小派閥も署名したこの宣言は、「分裂を終わらせ、パレスチナの団結を強化する」というパレスチナ人の合意の証拠である。

しかし、実施の試みには多くの問題が積みまとう。そして、その主な意義は、この地域での役割を容赦なく拡大している中国が仲介したという事実にあると判明するかもしれない。

### 曖昧さ

#### 最初の問題は、その曖昧さにある。

実施の日付は設定されておらず、ファタハの関係者は、合意された措置のほとんどはガザでの停戦後にのみ実行されるとすでに述べている。

技術官僚による統一政府に焦点が当てられていることも、2月にモスクワで行われた協議とあまり変わらない。

そこでの協議は両当事者を近づけたが、パレスチナ自治政府のマフムード・アッバス大統領は、ハマスと協議することなく、モスクワでの協議の精神に反して、新しいパレスチナ自治政府を任命した。

モスクワからの肯定的な「雰囲気」はすぐに相互非難に変わり、アッバスのファタハ派は、ガザでのイスラエ

ルの大量虐殺暴力についてハマスを非難する声明さえ発表した。

「ガザ地区への占領の再開に責任を負い、パレスチナ人が暮らすナクバを引き起こした者たちには、国家の優先事項を指示する権利はない」とアッバス派は3月15日の声明で述べた。

今回は、合意が成立する前にファタハは非難の応酬を終わらせたようで、ムニール・アル・ヤグーブという役人が7月初めにサウジのメディア、アル・アラビーヤに送った声明を謝罪し、撤回するよう求めた。声明は基本的にイスラエルの主張を繰り返すものだった。

「ハマスがイスラエルと直接対決しなかったなら、軍が駐留している地域で戦うべきであり、人がいる場所では戦わなかったはずだ」とアル・ヤグーブは述べた。「ハマスは実際には住民の間に隠れて自らを守り、救おうとしているのだ」

### 根本的な問題

アル・ヤグーブのような声明は、戦略の根本的な相違から生じる両派閥間の隔たりを強調している。

ファタハが主導するPLOは、1993年のオスロ合意の一環として、イスラエルの占領に対する武装抵抗を放棄した。この合意では、イスラエルと米国がPLOをパレスチナ人の「唯一の正当な」代表として認めるのと引き換えに、イスラエルを承認した。

この放棄と、オスロ合意の下でイスラエルが与えた薄っぺらな譲歩により、故パレスチナ人知識人エドワード・サイドはPLOを辞任し、この合意を「パレスチナ人の降伏の手段」と評した。

対照的に、ハマスは2017年の憲章で、武装抵抗を「正当な権利」であり「パレスチナ人の原則と権利を守るための戦略的選択」と評した。

ハマスの立場は、占領下にある国民が「独立、領土保全、国家統一、植民地支配、アパルトヘイト、外国の占領からの解放のために、武装闘争を含むあらゆる利用可能な手段で」戦う権利を持つとする国際法に合致している。

しかし、ワシントンの長年の立場とは一致しない。ワシントンは、イスラエルの占領を終わらせ、オスロ合意

以来劇的に拡大しているイスラエルの違法入植地を解体し、1947～49年のナクバで家や土地から民族浄化された人々の帰還が実現するという保証がなくても、すべてのパレスチナ派閥がイスラエルに対する武装闘争を放棄するよう要求してきた。

したがって、米国が北京宣言をほぼ即座に拒否したことは驚くには当たらない。国務省報道官のマット・ミラー氏は「我々はパレスチナ自治政府にガザの統治役を担ってほしいと明確に述べたが、ハマスの役割を担ってほしくない」と述べた。

### 米国の影響力

米国の立場はアッバスにとって依然として極めて重要である。

EU はパレスチナ自治政府への最大の援助国である一方、米国はパレスチナ自治政府の安全保障機構への資金提供と訓練を独占している。この機構はイスラエル軍との「調整」のために特別に設立された。

PLO の外交戦略は、イスラエルの不法入植地の絶え間ない拡大に埋もれてしまっていた。しかしパレスチナ自治政府は、常に不評だったイスラエルとの安全保障「調整」の継続を主張してきた。これは事実上、イスラエルの占領をラマラにアウトソーシングしている。

決して高くなかったアッバスの人気は、戦略の失敗と安全保障調整の両方の結果として急落した。

世論調査の結果、理論上の選挙では、アッバスはあらゆる候補者に負けていることが判明している。パレスチナ法では大統領の任期は5年以内とされているが、アッバスは2005年以降投票にかけられておらず、14年間にわたり大統領令によって統治してきた。

パレスチナ政策調査研究センターが7月10日に発表した最新の世論調査では、回答者の89%がアッバス氏の辞任を望んでいると答えた。60%以上がパレスチナ自治政府の解散を支持している。

この質問が行われた前回の世論調査(2023年3月)では、63%がイスラエルとの安全保障上のあらゆる連携の終了を望んでいると答えた。

言い換えれば、国民的、政治的、法的正当性を失ったアッバス氏は、統治の継続を治安部隊に頼っている。治安部隊は、10月7日以前から国内の反対意見をますます厳しく取り締まり、暴力はますます増大している。

治安部隊への依存は、ワシントンの好意に直接依存することにつながる。実際、米国の影響力は、アッバス氏が弱体化し、不人気になるほど大きくなるばかりだ。

### 中国の役割

ワシントンは、イスラエルによるガザでの大量虐殺を

支持し、共謀している。建設的な外交に取り組んでいるふりをするという、その完全な無能さと言うまでもなく、パレスチナにおける将来のいかなる外交的役割からも排除されるべきである。

この地域での外交と貿易の役割を数年にわたって拡大してきた中国は、2023年にサウジアラビアとイランの和解を推し進めたことで特に顕著であり、地域外交における米国の独占に真剣に挑戦できる財政的、軍事的、政治的影響力を持つ唯一の国である。

北京合意は、パレスチナ派閥の和解に向けた他の多くの試みと同じ道をたどることはほぼ確実だが、少なくとも1つの重要な合意分野を強調した。それは、ガザでの「戦後」のシナリオにおいて、部外者がいかなる役割も果たさないことを一致して拒否することである。

これはおそらく、停戦後にガザでのUAE主導の「臨時国際ミッション」を要請し、ガザ情勢に介入しようと画策しているアラブ首長国連邦への直接的な反応だろう。

パレスチナの各派閥は、ムハンマド・ダーランの関与が噂されているため、UAEの役割に反対することで一致団結しているかもしれない。アッバスとの不和で現在はUAEに亡命し、2007年にガザでハマスを権力から排除する失敗した試みを監督した元ファタハ指導者は、数か月前に同様のシナリオを示唆した。

あるいは、拒否は、UAEがリビア、イエメン、エジプトなどの国で行った他の外国介入の記録を現実的に評価した結果にすぎないのかもしれない。これらの介入はいずれも目立った成果をあげていない。

とはいえ、これは合意点であり、今後の基盤となるものである。そして、北京やその他の国の役割拡大を奨励することは、ワシントンのパレスチナ外交に対する過大な影響力を相殺することになるかもしれない。

実際、アル・マスリー・アル・ユームが公表した漏洩文書によると、北京宣言はこの点を明確に指摘している。漏洩した合意によると、各派閥は中国の仲介努力を称賛し、国際パートナー、特に中国とロシアと協力し、「一方的で偏ったアメリカの支援に代わる、国連の傘と後援の下、幅広い国際的および地域的参加を得て、イスラエルの占領を終わらせる」ことを誓約した。

そして、それはわずかではあるが、確かに進歩である。



イスラエルとパレスチナのイスラム主義組織ハマスとの紛争が続く中、食糧不足の中、慈善団体のキッチンで調理された食事を受け取るのを待つパレスチナの子供たち。ガザ地区南部ラファ、2024年3月5日。ロイター/モハメッド・サレム

## ガザの悪夢

ガザの人道支援活動家は、他に選択肢がないため、不可能な状況で活動を続けている。

オルガ・チェレフコ  
国連 OCHA 職員  
2024年7月7日公開

ガザ地区南部ラファ、慈善団体のキッチンで調理された食事を受け取るのを待つパレスチナの子供たち。2024年3月5日 [ロイター/モハメッド・サレム]

私がガザについて初めて悪夢を見たのは、2月に国連人道問題調整事務所(OCHA)での最初の派遣を終えてから6週間後のことだった。私はOCHAゲストハウスにいる夢を見ました。目の前で絶え間ない爆発で壁が崩れ落ちていました。調整会議中にノートパソコンのマイクに向かって叫んでいると、爆発の煙が喉に詰まっていました。私たちは皆、何も起こっていないかのように自分の仕事を続けました。

目が覚めたとき、煙がまだ私を窒息させているように感じました。私は無力感と怒り、そしてガザを離れたことへの罪悪感を感じました。それ以来、悪夢は数多くあったが、ガザの人々が直面している悲惨な現実には匹敵するものはなかった。

ガザ保健省によると、10月7日以来、ガザでは38,000人以上が死亡し、87,000人以上が負傷している。多くの人が人生を変えるような怪我を負っている。約190万人、つまり人口の90%が避難を余儀なくされている。ガザには安全な場所がないため、多くの人が何度も移動しなければならなかった。

ガザのパレスチナ人が直面している悲惨な状況を「生活環境」という言葉で表現するのは馬鹿げているように思える。人々は「生活」しているのではなく、かろうじ

で生き延びているのだ。多くの人々は、避難場所として認められるスペースがますます狭まる中で、ぎゅうぎゅう詰めシェルターに住むことを余儀なくされている。私は、5家族もが、ぐらぐらするフレームに支えられたビニールシートや破れた毛布の下で一緒に暮らしているテントを見たことがある。

ガザの人々の大半は、食料、水、医薬品、衛生用品など、生活の基本的な必需品さえ欠いている。テントの近くにトイレ用の穴を掘ることは、今では極めて稀となった共同トイレを探して待つことを避けるために、ますます一般的になっている。

医療システムが壊滅的な打撃を受け、A型肝炎などの病気が前例のないレベルに達している。部分的にしか機能していない数少ない病院は、毎日外傷患者を受け入れている。私が訪れたどの病院も、手足を失ったりするなどひどいけがをした負傷者であふれていた。その多くは子供たちだった。

4月に2度目の派遣で戻ったとき、前回訪れたときと比べて破壊の規模は2倍になっているように見えた。私は、ほぼ壊滅したハーン・ユニスと、北部の瓦礫の山を目にした。爆撃は容赦なかった。

ガザにいる友人たちが全員無事だと知ってほっとしたが、全員が実年齢より老け込んでおり、2月以降何度も引越した人もいた。

ガザで一番親しい友人で、素晴らしいシェフのハレドは、私が戻ると伝えるとすぐに訪ねてきた。私は彼と10年以上知り合いだが、彼は複数の戦争、度重なる避難、愛する人の喪失を経験したにもかかわらず、常に驚くほど強く粘り強い。

この戦争で、ハレドはこれまでに7回避難している。しかし、ガザのほとんどの人々と同様に、彼は自分を憐れむことを拒んでいる。「ガザのシェフになりたい」と



彼は私に語った。「誰も飢えないよう」

彼はこの夢の実現に向けて順調に進んでいた。4月にイスラエルの爆弾で破壊されるまで、毎日何千人もの人々に食事を提供するコミュニティキッチンを中心にハーンユニスに設立していた。私がガザ北部での任務から戻ったばかりのとき、ハレドは私に何が起きたかをテキストで知らせ、被爆した地域のビデオを送ってくれた。血だらけで瓦礫とほこりまみれの小さな女の子が救急車に運ばれていた。ガザではあまりにも当たり前になっていた、非道な光景だった。

5月初旬、ハレドの第一子となるアイリーンという名の女の子が、爆弾とドローンの耳をつんざくような騒音の中で1歳の誕生日を迎えた。私はハレドにアイリーンは爆発を怖がっていたかと尋ねた。彼は笑った。「彼女は何が起きているのか全く分かっていない」と彼は答えた。幸運なことに、小さな少女は！

ガザの人口の半分は子供です。10月7日以来、何千人もの子供が殺され、何千人もの人が負傷しました。紛争の心身の傷を一生背負うことになる人はもっとたくさんいます。

避難所の状況が悲惨なアル・マワシで、私は家族のために飲み水を探している小さなサマに出会いました。水を探すのは、食料を探すのと同じように、大変な仕事です。水が足りないのです。

紛争中にガザの水道・衛生施設の少なくとも半分が損傷または破壊され、深刻な燃料不足でほとんどの井戸が使えなくなりました。人々は配給所まで数キロ歩き、容器に飲み水を入れるために灼熱の太陽の下で何時間も待たなければなりません。

ガザに入る援助はほんのわずかしがなく、食料は不足しています。何とか通り抜けた物資は極度の不安の中で配給されます。配給されるかどうかは別問題です。援助物資の輸送車列の動きが妨害されたり、完全に拒否されたりすることが多すぎる。

サマの母親リームと祖父母はイスラエルの空爆で亡くなり、サマと幼い弟の世話を父親のマフムードが一人でやらなければならなかった。

私がマフムードに会ったとき、彼は赤ん坊のハッサンを片腕に抱え、まるで危害から守るかのようその小さな体を抱きしめていた。もう片方の腕には数少ない持ち物を抱え、サマはガソリン携行缶を持って数歩先を歩いていた。

ラファから避難したばかりの彼らは、灼熱の太陽の下、アルマワシで何時間も滞り場所を探していた。2つの避難所には空きがまったくなかったため追い返され、彼ら

は先へ進み続けた。今夜はどこで寝るのだろうか？ 眠れるのだろうか？ 何か食べるものはあるのだろうか？ 明日は何が起ころのだろうか？ 明日はあるのだろうか？ 誰も知らないようだった。

イスラエル軍が5月に南部で新たな避難命令を出した後、ガザ地区のほぼ中央を通るサラーフ・アッディーン通りは移動する人々の海となった。人々は車やロバの荷車、あるいは単に徒歩で移動した。ラファの通りは、最初の避難命令で人々が南部に追いやられた戦争初期の数週間に人が溢れかえったのと同じくらいの速さで、わずか1週間で空っぽになった。

私は5月末、苦悩と罪悪感に苛まれながらガザを去った。それ以来、ガザへのテキストメッセージが届かないたびに最悪の事態を恐れ、執拗に携帯電話をチェックしている。

今日、ガザとその人々の運命はかつてないほど不確実である。しかし、援助活動家たちは、困難な状況の中で、日々、あらゆる困難に立ち向かいながら働いている。そして、私のWhatsAppメッセージの2番目のチェックマークがようやく表示されたとき、私の親友ハレドは、彼の仕事も続くと私に安心させてくれた。「私は大丈夫だ」と彼は言う。「そして人々に食事を与える。戦争が終わったら、私たちは国を建て直す」

彼の言葉は、私が抱いていた夢を思い出させる。私たちの周りでガザは燃えている。しかし、私たちは進み続ける。それが私たちに残された唯一の選択肢だからだ。

この記事で述べられている見解は著者自身のものであり、必ずしもアルジャジーラの編集方針を反映するものではない。

オルガ・チェレフコ

国連人道問題調整事務所職員

オルガ・チェレフコは国連人道問題調整事務所(OCHA)職員である。彼女は2024年1月から5月まで、合計3か月間、2回ガザに派遣された。





2024年7月9日 記事、論評

イラン・パペ著 - パレスチナ・クロニクル

瓦礫の下に埋もれ、年長の子供たちに助け出された子供たちの姿は、私にとって、そしてきっとロビー団体によって沈黙させられたことのある人にとって、屈服するのではなく、権力に真実を語る私たちの道に彼らが設けたどんな障害も乗り越えるのに十分な光景です。

イスラエルによるガザ地区への大量虐殺攻撃から9か月が経ち、パレスチナに対する言論の自由に対する攻撃も激しさを増しているようで、一般大衆が主流メディアによる操作され歪曲された報道を超えてパレスチナの現実を理解することは困難になっている。

親イスラエル派のロビー団体が主導し、進行中のナクバの歴史的否定を継続することを目的とした組織的なキャンペーンに直面していることは明らかだ。

キャンペーンは、10月7日のハマスによるイスラエル攻撃の歴史的、ましてや道徳的背景について言及するだけでなく、西側の多くのジャーナリストや学者への警告から始まった。歴史的背景について言及しただけで、国連事務総長に警告が向けられたこともあった。

10月7日以降に実施された気づかれていない抑圧行為を分析することは、重要な疑問を提起できるため非常に重要である。親イスラエル派のロビー団体は、パレスチナに関する言論の自由を封じ込めるほどの力を持っているのか、それとも10月7日の出来事とその欠陥が露呈したのか？

この疑問がきっかけで、私はロビー活動の500ページの歴史を書こうと思った。歴史的背景を示すことで、今日のロビー活動の性質を理解し、その将来的な影響を予

測できる最高の答えが得られると信じているからだ。

10月7日直後、背景について言及することが禁止されただけでなく、ガザにおけるイスラエルの行動に対する批判もすべて沈黙させられた。

北半球のあらゆる場所で、大学はパレスチナ正義学生会などの団体のメンバーであるという理由だけで学生を追放した。イスラエルを批判しようとした学者や作家の招待さえ取り消した。ジャーナリストや公務員に対しても同様の措置が取られ、2023年10月7日のハマス攻撃を非難する批判を伴った人々に対しても同様の措置が取られた。

最初の弾圧の波では、米国中のいくつかの会場が、予定されていた映画祭や人権に関する年次会議を中止した。

まるで、米国で「パレスチナ」という言葉がテロリズムと同一視されていた1960年代に戻ったかのようだった。少なくとも米国では、この同一視は一般大衆の間ではもはや通用しない。痛ましいことに、ガザの惨劇の全容が米国のテレビ画面に映し出されてからはそうだ。しかし、検閲と抑圧は依然として存在している。

パレスチナに関する言論の自由に対する攻撃は、サイバースペースでも現れた。ソーシャルメディアプラットフォームのほとんどを運営するMetaは、InstagramとFacebookの両方でパレスチナ人を支持する声を封じ込めることに積極的であり、今も取り組んでいる。

非政府組織ヒューマン・ライツ・ウォッチは、2023年末までにこれら2つのプラットフォームでパレスチナ関連のコンテンツが1,000件以上削除されたと記録している。同組織によると、削除されたコンテンツのうち不適切と見なされたのは1つだけだった。

さらに心配なのは、Metaによる言論の自由の抑圧は組織

的かつ世界的であるという同組織の主張である。

立法レベルでも抑圧が強化された。アメリカ議会は「反ユダヤ主義啓発法」という名の法案を議論している。反ユダヤ主義に反対する法案はすでにあるため、新法案の目的は反ユダヤ主義を武器にし、イスラエルに対する批判を憲法修正第1条で保護されている範疇から排除することだけだ。

信じられないことに、新法案によると、反ユダヤ主義はイスラエルに対する二重基準を非難することや「ユダヤ人の自己決定権を否定すること」とも定義できる。

こうした法律は、パレスチナ支持の抗議活動や野営地に対する警察の残忍な行動として世界各地で実行された。これに伴い、ガザでの大量虐殺の犠牲者パレスチナ人への連帯をあえて示した民間部門および公共部門の従業員のメッセージは、あらゆるプラットフォームで徹底的に精査された。

英国だけでも、オンラインでのメッセージが原因で迫害されたクライアントを弁護しようとする弁護士のさまざまなケースで、私が助けを求められたことは覚えていない。これらのメッセージのほとんどは、よく知られた事実や、怒り、悲しみ、希望といった正当な感情を述べたものだった。

読者もご存知のとおり、パレスチナに関する私自身の言論の自由は、複数の方法で制限された。

以下にいくつかの例を挙げる。2023年にシオニスト億万長者に買収されたフランスの出版社ファヤードは、印刷を停止した。私の著書『パレスチナの民族浄化』の宣伝と普及活動は、非常に困難でした。

もう一つの例を挙げると、私はデトロイト空港で数時間拘束され、尋問を受けました。さらに、ドイツやチェコ共和国など、いくつかの国での講演のほとんどがキャンセルされました。幸いなことに、活動家や主催者は土壇場で新しい会場を見つけるほどの善意を持っていました。

つい最近、Amazon UK (Amazon USとは異なり) が私の著書『大西洋の両側でシオニズムを訴える』を販売しないように全力を尽くしていることを知りました。おそらく、この英国の電子商取引大手は、この本で説明されているロビー活動の影響下にあるからでしょう。これまでのところ、Amazonで販売されている私の本はどれもそのような扱いを受けていませんが、今はこうなっています。私が米国で経験したのと同じような経験を、グラスゴー大学の学長ガッサン・アブ・シッタがドイツとオランダを旅行したときに経験しました。学術的地位や職業上の評判に関係なく、このような扱いから逃れられる人はい

ないようだ。すべては、私たちが西側でパレスチナについて自由に発言するのを阻止しようとするロビー団体の仕業である。

このように、10月7日から9か月が経ち、パレスチナ人全般、特にガザ地区の人々への支持を黙らせようとする動きが激化している。

こうした動きは道徳的義務によって動機づけられたものではなく、道徳的議論として表現されたものでもない。ロビー団体が気に入らないメッセージを伝えるすべてのメッセンジャーを黙らせるために、マフィアのような威嚇力のみを駆使して行われている。

しかし、これは単なる挑戦や挫折として見るべきではない。ロビー団体がパレスチナ人との連帯を示すあらゆる試みを激しく攻撃しても、日ごとに指数関数的に増大する支持の増大を管理できないことは隠し切れない。

フランスの国政選挙で驚くべき成功を収めた後、人民戦線のあらゆる祝賀行事でパレスチナ国旗が大量に掲げられたこと。イスラエルの学界の孤立化が進んでいること、国際司法裁判所と国際刑事裁判所の判決は、パレスチナを否定したり、パレスチナ人とその連帯運動を沈黙させることは不可能であることを示す多くの兆候のほんの一部に過ぎない。

ロビー団体には、広範囲に広がる連帯に対処するのに十分なリソースと能力がない。パレスチナのために多くの人々を動員することに成功したからこそ、ロビー団体は最も破壊的な武器と戦術を使わざるを得ないのだ。

この記事を書いているとき、私はヌセイラトの UNRWA 学校に対するイスラエルの4回目の攻撃のニュースを読み、16人が死亡した。

この学校は、ここは安全な場所だと教えられて、ガザ地区の他の地域からの難民を受け入れていた。

瓦礫の下に埋もれ、年上の子供たちに助け出された子供たちの姿は、私にとって、そしてロビー活動によって沈黙させられたことのある人にとって、権力に真実を語る私たちの邪魔になる障害を屈服させるのではなく乗り越えるのに十分なものと確信しています。

結局のところ、真実に関して言えば、パレスチナ人は失うものは何もありません。

- イラン・パペはエクセター大学の教授です。以前はハイファ大学の政治学の上級講師でした。彼は『パレスチナの民族浄化』、『現代の中東』、『現代パレスチナの歴史：一つの土地、二つの民族、そしてイスラエルに関する10の神話』の著者です。彼はラムジー・バルードとともに『解放への我々のビジョン』の共同編集者である。

# パレスチナ日誌

10月27日

- ・900人の米兵が防衛強化のため中東に向かう
  - ・イスラエルは2つのスパイ会社を使って、ガザにいる捕虜の居場所を割り出す
  - ・アル・カッサム旅団がテルアビブに向けてロケット弾を発射
  - ・占領軍がヨルダン川西岸で大規模な逮捕・襲撃作戦を開始
  - ・戦争21日目：ガザ地区各地の家屋への爆撃で60人以上の殉教者が死亡した。
  - ・占領軍はヘブロンを襲撃し、ガザからの労働者も標的にした逮捕作戦を開始した。
  - ・ベツレヘムを襲撃、市民11人を逮捕
  - ・ナブルス占領軍襲撃時の負傷者と逮捕者
  - ・イスラエルに武器を供給するアメリカのメーカーに反対するニューヨークのデモ行進
  - ・占領軍ガザ東部アル・シュジャイヤに限定部隊侵入
  - ・占領軍がヨルダン川西岸で大規模な逮捕・襲撃作戦を開始
  - ・フェイスブックへの投稿が原因で、占領軍はカルキリヤの商業店舗を取り壊した。
  - ・カルキリヤで市民が占領軍の銃弾で死亡
  - ・戦争21日目：ガザ地区各地の家屋への爆撃で60人以上の殉教者が死亡した。
  - ・ミサイルがタバに着弾、6人が負傷
  - ・ペンタゴンアメリカ、シリアでイランの標的に対する攻撃を実施
  - ・占領軍はヘブロンを襲撃し、ガザからの労働者も標的にした逮捕作戦を開始した。
  - ・ベツレヘムを襲撃、市民11人を逮捕
  - ・占領軍によるナブルス襲撃での負傷者と逮捕者
  - ・占領軍ガザ東部アル・シュジャイヤに限定部隊侵入
  - ・7,326人の殉教者... 戦後21日目に数十人の殉教者、そのほとんどが子供と女性だった
  - ・ナブルス西部で入植者と占領軍の襲撃を受け、青年が負傷した。
  - ・学生ストライキがスペインの各都市を席巻し、バルセロナではデモや座り込みが行われた。
  - ・アル・カッサムがラファ海からの侵入を阻止し、弾薬を押収
  - ・米財務省がハマスへの新たな制裁を発表
  - ・西岸で女性とジャーナリストを含む70人の市民が逮捕された。
  - ・ベツレヘムで対立、占領軍の銃弾で2人負傷
  - ・テルアビブでミサイルがビルに落下し3人が負傷
  - ・第3金曜日-アル・アクサへの入場を阻止し、エルサレムの路上での礼拝を抑圧する。
  - ・レバノンとイスラエルが交戦
  - ・ユネスコ、ガザの校舎への攻撃の即時停止を要求
  - ・イスラエル年末までホテルに滞在する125,000人のイスラエル人の避難
  - ・アル・カッサムがアシュケロンを爆撃
  - ・UNRWA：ガザでは62万9000人が避難生活を強いられている
  - ・占領当局はガザ地区からの通信を遮断した。
  - ・ヘブロンでの対立で3人の若者が重症を含む負傷を負った。
- 10月28日
- ・米国の教授1700人がバイデン大統領に停戦を要請
  - ・米国はイスラエルに対し、完全な地上侵攻ではなく「外科的」作戦を実施するよう求めた。
  - ・総会、即時かつ持続可能な人道的停戦を求めるガザに関する決議を採択
  - ・占領軍はラマツラ北部のジャラズーンキャンプで家屋を取り壊し、市民7人を逮捕した。

- ・占領軍は150の地下標的を破壊し、カッサム司令官を暗殺したと主張している。
- 10月29日
- ・イスラエル軍がヒズボラへの軍事攻撃を発表
  - ・イスラエル人捕虜の家族が戦争評議会との緊急会談を要求
  - ・占領軍はヘブロン西部のイドナで、幼稚園の子どもたちを乗せた車とバスを没収し、自宅捜索を行った。
  - ・イスラエルの侵略による殉教者は7,703人に上り、うち3,195人が子どもである。
  - ・ガザ・ロケット弾がキリヤト・オノ、ホロン、ラマツ・ガンに落下し、負傷者や被害者が出た。
  - ・ガザ地区各地への占領軍の爆撃が再開された。
  - ・レバノン... 国境沿いの町を狙ったイスラエルの新たな爆撃
  - ・アルアルブ・キャンプで占領軍の銃弾により負傷者2名
  - ・ベツレヘムのKhalayel Al-Lawzで入植者が市民宅に発砲
  - ・占領軍、ナブルス南部の町アワルタの若者3人を逮捕
  - ・占領軍、ナブルス南部の町アワルタの若者3人を逮捕
  - ・イスラエル、ガザでのスターリンク使用を許可したスペースX社との提携を解消
  - ・ヒズボラがザリットの兵舎を攻撃し、直接死傷者を出す。
  - ・占領軍機と大砲によるガザ地区への激しい空襲で殉教者と負傷者
  - ・アスカル・キャンプで対立、占領軍の銃弾で負傷
  - ・ナブルス、トゥバス、ラマラで3人の殉教者が占領軍に射殺された。
  - ・占領軍がアスカルキャンプの殉教者ハッサン・カトナニの家を爆撃
  - ・バラタ・キャンプで占領軍により4人が負傷
  - ・戦争23日目：数十人の殉教者と負傷者、侵略の犠牲者は8千人を超える
  - ・占領軍、ヨルダン川西岸地区から少なくとも35人の市民を逮捕
  - ・占領軍がエルサレムのシュアファト・キャンプを襲撃
  - ・アル・カッサム抵抗軍兵士はペイトラヒアの北西で占領軍と対峙した
  - ・占領軍、ガザのアルクツズ病院を爆撃する意向を確認
  - ・ガザの健康ストリップの殉教者数は8,005人に増加
  - ・占領軍ブルドーザー、サルフィットで数十ダンのブルドーザー破壊を続ける
  - ・メイン  
ニュース
  - ベツレヘムのDheisheh キャンプで青年が殺害される
  - ・イスラエル軍がレバノンから発射されたロケット弾の落下を発表
  - ・イスラエル軍がレバノンから発射されたロケット弾の落下を発表
  - ・トゥルカルムの北、カフィンの占領の嵐
  - ・占領軍機がレバノン南部を数回空襲
  - ・ヒズボラ、国境上のイスラエル軍施設2カ所を標的と発表
  - ・ナブルス東部で占領軍と対立し、2発の銃弾を受ける
  - ・ナブルス北西部ブルカで建設中の家屋を爆撃する占領軍
- 10月30日
- ・イスラエル軍キリヤット・シュモナにミサイル6発発射
  - ・オリフで子供が占領軍の銃弾で負傷
  - ・エジプトからガザ地区へ48台の援助トラックが通過
  - ・占領軍：開戦以来、ガザで239人の捕虜、311人の兵士が死亡
  - ・刑事裁判所検事ガザ住民への支援物資輸送の遅延は犯罪にあたる
  - ・戦争後のガザ地区住民のシナイへの移住を提案するイスラエルの文書の公開
  - ・病院を爆破するという脅迫... 数十人の殉教者と負傷者を出した集中夜間襲撃
  - ・シン・ベトが警告入植者の攻撃により、軍は兵士をヨルダン川西岸に派遣せざるを得なくなった
  - ・ジェニンで占領軍に射殺された4人の殉教者
  - ・逮捕2- 占領軍によるデイシェ・キャンプ襲撃で3人が負傷
  - ・ヨルダン川西岸での逮捕キャンペーン

- ・アルアウジャ交差点にパレスチナ支援物資第8陣を送る
- ・ネトヴォット入植地の民家にミサイルが命中
- ・イスラエルがレバノン南部のアイタ・アル・シャブの町郊外を爆撃
- ・ガザの健康殉教者の数は8,306人に増加
- ・ガザ民間防衛テル・アル・ハワで起きていることはジェノサイドであり、ホロコーストである
- ・アル・カッサムがベイトラヒアの北西で占領軍を奇襲
- ・占領軍がガザ地区から女性兵士を解放したと主張

10月31日

- ・両国の高等教育部門で439人の殉教者
- ・UNRWA：作業を続けることは不可能であり、ガザへの援助物資搬入システムは失敗に終わる運命にある。
- ・10月7日以降、イスラエル人の死者は1,538人を超えた。
- ・レポートネタニヤフ首相、ガザからの難民を受け入れるようエジプトに圧力をかけるよう欧州諸国を説得しようとした
- ・占領軍がガザの病院周辺への爆撃を強化... “患者の処刑”に対する国際的警告も
- ・開戦25日目：空襲、陸襲、海襲の連続で数十人の殉教者と負傷者
- ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・占領軍は地上侵攻を拡大し、ガザの300の標的を攻撃すると主張している。
- ・占領軍が『マアン通信』編集長宅を襲撃、息子を逮捕
- ・エジプト当局、パレスチナ支援物資第9陣をアウジャ交差点に送る
- ・ネタニヤフ首相、対ガザ戦争は第3段階に入ったと発表
- ・サルフィット占領軍、ファルカ村の土地数百ドゥナムを没収
- ・占領軍、イエメンからエイラート上空を通過する行進の阻止を発表
- ・エルサレムで逮捕者続出
- ・続く包囲 - 入植者がアル・アクサを襲撃
- ・アル・カッサム、ガザ北部と南部で占領軍との激しい衝突を確認
- ・英首相、ガザ停戦を求めた政府補佐官を解任
- ・UNRWA：ガザでの殉教者の70%は子供と女性だった
- ・ガザの殉教者数は8,525人に増加
- ・住宅地の破壊 - 占領軍の戦車がカラマ地区に到達し、サラ・アルディン通りを横切る

11月1日

- ・保健省：ガザ地区とヨルダン川西岸地区で8,610人が殉教し、23,000人以上が負傷した。
- ・4人の負傷者と大きな被害アシドッドにロケット弾2発落下
- ・占領軍機がヌセイラート・キャンプの住宅2棟を爆撃し、数十人の殉教者と負傷者を出した。
- ・ガザでのレジスタンスとの衝突で兵士2人が死亡、他の兵士も重傷を負った。
- ・イスラム系アメリカ人からバイデンへ：ガザ停戦なくして賛成票なし
- ・ボリビア、イスラエルと国交断絶
- ・占領軍がジェニンのファタハ地区書記を逮捕
- ・アメリカ政府関係者が明かす：この任務のために数十人のコマンドがイスラエルにいる
- ・予想される人道的災害... 健康アル・シファ医療施設は明日サービスを停止する
- ・トゥルカラムで市民が占領軍の銃弾で死亡
- ・ガザ戦争26日目：殉教者、負傷者、そして地上侵攻は続く
- ・占領空軍によるジェニン空爆で3人の殉教者
- ・占領軍は、ガザで兵士9人が死亡、4人が負傷したと発表した。
- ・ヨルダン川西岸での逮捕キャンペーン
- ・標的地域の囚人と解放囚 - 家屋を襲撃し、“金、車、金貨”を没収する。
- ・エジプト、ガザからの負傷者受け入れのためラファ国境を開放
- ・エジプト当局、アウジャ交差点にパレスチナ支援物資第10陣を送る

- ・エジプト、イスラエル、ハマスが外国人パスポート保持者の避難許可に合意
- ・イスラエル、装甲車標的の死者数が10人になったと発表
- ・ガザ地区からの負傷者の第一陣がエジプトの病院に収容された。
- ・ガザ侵攻開始以来の殉教者8796人
- ・ガザ地区北部における占領軍兵士の死者数は14人に上った。
- ・健康ガザ侵攻による殉教者8,850人、負傷者約24,000人
- ・アル・カッサムがイスラエルの標的に対する一連の攻撃作戦の実施を発表

11月2日

- ・ガザでの戦闘で死亡したイスラエル軍兵士の数は16人に上る。
- ・ガザ地区への連続空襲で数十人の殉教者と負傷者
- ・国連：イスラエルによるジャバリア・キャンプ爆撃は「戦争犯罪に相当する可能性がある
- ・米国防総省が対ガザ戦における自軍の位置と役割を明かす
- ・イスラエルの安全保障代表団がエジプトを訪問し、2つの重要なファイルについて話し合った。
- ・アル・カッサム・ブリゲードガザ北西軸で戦車とブルドーザーを標的にした。
- ・バイデン：“人質”を取り戻すために、ガザでの人道的停戦が必要だ
- ・戦争27日目：ガザ地区への激しい空襲とジャバリアの殉教者
- ・ヒズボラ、イスラエルの無人機撃墜を発表
- ・カルキリヤ襲撃時の殉教者と占領軍の銃弾による負傷者
- ・占領軍ブルドーザーがベイト・ハニナのバラックとフェンスを取り壊す
- ・トゥルカラム近郊で銃撃、イスラエル人死亡
- ・ブリュッセルの米国大使館前で抗議行動、占領の侵略を糾弾 公開日：02/11/2023（最終更新日：02/11/2023/11:11）02/11/2023（最終更新：02/11/2023 at 11:22）パートナー ブリュッセル=マアン】ベルギーのパレスチナ民主主義集会は、パレスチナ人・アラブ人コミュニティのメンバーやベルギーの連帯活動家らとともに、ベルギーのブリュッセルにあるアメリカ大使館前で抗議行動に参加し、イスラエルによるパレスチナ人に対する継続的な侵略と、ファシストイスラエル占領政府がアメリカの支援と占領への偏見を背景にガザ地区で行っている大量虐殺戦争を非難した。

デモでは、パレスチナ国旗、横断幕、唱和が掲げられ、イスラエルの占領に対するアメリカの支援、占領軍がパレスチナ人民に対して行っているジェノサイドと民族浄化のキャンペーンを非難し、ガザに対する戦争の終結、同地区への医療・食料物資の搬入、掃還・自決・民族独立に対するパレスチナ人民の正当な民族的権利の承認を要求した。

- ・アムネスティ・インターナショナルが証拠を暴露：イスラエルはガザとレバノンで白リンを使用した
- ・ヒズボラがメンバーの殉教を発表
- ・ドイツがハマスの活動を禁止、サミドゥーンを解散
- ・エジプト、ラファ交差点で米国人400人を受け入れる
- ・ガザ北部の衝突でイスラエル軍将校が死亡、4人が重軽傷
- ・ガザ戦争... 殉教者の数は9061人に上る
- ・ガザ地区に投下された爆弾は2万5000トンを超えた。
- ・バーレーン、駐イスラエル大使を引き揚げ、経済関係も断絶
- ・アル・マカセド病院を襲撃し、ガザ地区の患者と同伴者を逮捕。
- ・ヒズボラが無人偵察機2機でイスラエル攻撃、占領軍が対応
- ・レバノンのアル・カッサム：我々はキリヤット・シモナの入植地とその周辺を12発のロケット弾で爆撃した
- ・アブ・オベイダ 我々は戦車大隊を撃破し、敵の死傷者数はもっと多い

11月3日

- ・ヘブライ語メディア イスラエルは数時間の攻撃停止と燃料の持ち込みに同意する可能性がある
- ・ジェニンで占領軍による2人の殉教者と4人の負傷者
- ・イラク派閥が死海沿岸にあるイスラエルの重要な標的を標的にすると発



私たちはエルサレム、エーカー、ヤッファです  
わたしたちはガザとジェニンの中心にいます  
わたしたち一人一人が千の花を咲かせます  
イチジクの葉は一枚も枯れさせません  
あなたは決して正義を放棄したことはありませんし、恐れたこともありませんでした、  
私たちの帰還は私たちの信仰であり、確信です。  
我々は沈黙はしない、降伏はしない、ノーノーノー  
ノーノーノー  
我々は生きるためにあなたのために犠牲を払う、  
パレスチナよ！  
パレスチナは私の国です  
傷としてでも希望としてでも 私たちはそれを抱えています  
パレスチナは私の国です  
私たちは沈黙しません、降伏しません、ノーノー  
ノーノーノーノー  
パレスチナよ、私たちは生きるためにあなたのために犠牲を捧げます！  
パレスチナは私の国です  
傷としてでも希望としてでも 私たちはそれを抱えています  
パレスチナは私の国です  
パレスチナは私の国です  
あなたの太陽が私たちの夢の上に輝くように そして、あなたの小さな子供たちが笑顔で眠りますように そして、あなたが私たちに電話するときに元気に会いますように 家を再建し、庭を耕すために 私たちの悲慘さにもかかわらず、私たちはあなたを故郷に変えます

自由な人々が団結を唱えている  
我々は沈黙しない、降伏しない、ノーノーノーノー  
ノーノー  
パレスチナよ、私たちは生きるためにあなたのために犠牲を払うつもりです！  
パレスチナは私の国です 傷としてでも希望としてでも 私たちはそれを抱えています  
我々は、パレスチナ、あなたとともにあります。  
我々は沈黙はしない、降伏はしない、ノーノーノー  
ノーノーノー  
パレスチナよ、私たちは生きるためにあなたのために犠牲を捧げます！  
パレスチナは私の国です 傷としてでも希望としてでも 私たちはそれを抱えています  
パレスチナは私の国です  
私たちは沈黙しません、降伏しません、ノーノー  
ノーノーノーノー  
パレスチナよ、私たちは生きるためにあなたのために犠牲を払います。  
パレスチナは私の国です 傷としてでも希望としてでも 私たちはそれを抱えています  
パレスチナは私の国です  
Writer(s): Ajlan Thabet、Humood Alkhudher  
Falasteen Biladiで検索

# おいしいパレスチナ ムハッレビのレシピ

このムハッレビのレシピは、中東の伝統的なミルクプリンで、最も簡単に作れて、さわやかで、おいしいデザートの一つです。ミルク、砂糖、コーンスターチというほんの一握りの材料だけで作られ、いくつかの簡単な手順で滑らかなプリンのようなデザートができます。

ムハレビとは？

ムハレビは、マハラビア、ムハラビヤ、ムハラビとも綴られ、中東の伝統的なデザートで、ミルク プディングとして知られ、この地域のさまざまな国で楽しまれています。クリーミーな中東のミルク プディングで、ミルクが主な材料で、滑らかで繊細な食感のデザートです。

ムハレビは通常、ミルク、砂糖、ローズ ウォーターやオレンジ ブLOSSAM ウォーターなどの香りのよい調味料などの材料で作られています。このクリーミーな中東のデザートは、ピスタチオやアーモンドなどのナッツで飾られることが多く、シナモンの粉やココナッツの細切りを振りかけて風味豊かな食感を加えることもあります。

器具

中サイズの鍋 - すべての材料を調理するために使用します。

万能泡立て器 - すべての材料を混ぜるために使用します。

ガラス製デザートボウル - 盛り付け用。

材料

ムハレビのレシピの材料

全乳 - 全脂肪乳は、このデザートに濃厚でおいしいミルクプリンの風味を与えます。

コーンスターチ - 混合物を濃くして、より濃厚なカス



タードのような食感にします。

白グラニュー糖 - このレシピを甘くします。

オレンジブLOSSAMウォーター - このデザートにさらに芳香な風味を与えます。

刻んだピスタチオ - ナッツを加えると、ムハレビとよく合うサクサクしたナッツの食感が得られます。

食べられるバラの花びら - 飾り用 (オプション)。

手順

コーンスターチとミルクをカップで混ぜる

ステップ 1 | 冷たいミルク 1 カップにコーンスターチを泡立て器で混ぜます。

鍋にミルクと砂糖を入れます

ステップ 2 | 鍋でミルクと砂糖を中火から強火で混ぜます。

鍋に入れたミルクと砂糖の上に、コーンスターチとミルクを混ぜたものを注ぎます

ステップ 3 | コーンスターチを鍋のミルク混合物に注ぎます。

鍋に入れたムハレビがなめらかになるまで、弱火でかき混ぜ続けます。

調理したムハレビを鍋から小皿に注ぎます。

ステップ 5 | 火から下ろし、オレンジ ブLOSSAM ウォーターでかき混ぜます。次に、小さなカップに注ぎます。

バラの花びらとピスタチオを添えた、5 皿に盛ったムハレビ

## 守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



### オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。  
パレスチナの農民の土地を守る闘い、  
生活を守る闘いを支援します。  
集まった基金は、パレスチナ農業  
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

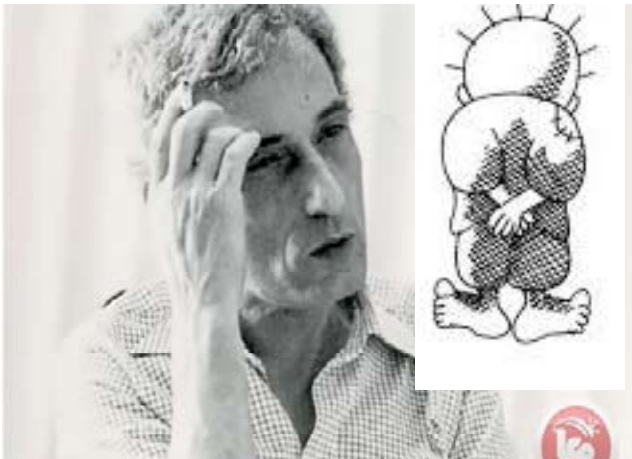
記号番号：00960-2-303500番  
名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)

預金種目：当座

口座番号0303500



7月22日ナジ・アルーアリがロンドンで暗殺されて37周年

## 今号の内容

停戦を拒否し、ジェノサイドを続けるイスラエル・・・1  
 ガザでの大虐殺の否定・・・3  
 パレスチナ各派が北京合意に署名・・・6  
 ガザの悪夢・・・8  
 ロビー団体をウ打ち負かすことができる・・・10  
 パレスチナ日誌・・・12  
 パレスチナの愛した歌・・・14  
 おいしいパレスチナー・・・15  
 トピック・・・16



7月24日ネタニヤフの演説を前にキャピトルヒルで抗議行動



パレスチナのアスリートがパリオリンピックに存在することが大勝利である。



7月21日空爆で死亡したっ派親から胎児救出



7月22日新宿での抗議行動



7月20日アディダスがイスラエルの批判を受け、親パレスチナモデルをはずす



7月14日大阪での抗議行動